

令和4年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	平岡 善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	アフターコロナの状況下、教室の定員数変更など、対面講義前提での講義環境が変化したことによる、講義方法の対応が必要となった。
	理 由	科目やクラスによって想定していた履修者数からの増減がみられ、それに対応した教室の再配置、教室設備のばらつきが生じ、同じ科目でもクラスによって柔軟な講義運営が必要となった。また、3階4階に新しく整備された教室を運用し始めたことによって、必要な設備を検討しなければならない。
②	課 題	講堂での講義において、ステージ設備や客席の構造上、講義スタイル、試験方法の制約が生じた。
	理 由	板書が出来ない、筆記試験が出来ない、学生とのオーラルコミュニケーションや、ペーパー配布・回収が難しいなど、従来の講義手法から変更を余儀なくされ、オンラインツールとの併用により担当教員が対応されている。
③	課 題	対面講義は開始されたが、ディスカッションやグループワーク、学生の発話、接触を伴う講義の実施の判断が難しくなっている。
	理 由	教室の制約（机の配置や定員減など）、会話・接触・道具の共有など感染の恐れのある行動の制限、などがあり、オンラインツールを併用するなど工夫されているが、教員個人の判断では難しい場合もある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	講義一演習、大人数・少人数といった軸で、科目のグルーピングを行い、新カリ時間割と照合しながら、それに対応する教室群を設定する。科目担当教員からの意見徴収をもとに各教室群で必要な設備を整理し、キャンパス整備委員会等に要望を提出する。
	講堂での講義設備のニーズ、使い勝手について意見を徴収し、学務課および施設課と相談。改善が必要なところについて要望を提出する。
③	科目によっては事前にオンラインでのグループワークを課しておき、対面の機会では内容を絞って効率的効果的にディスカッションを行うなどの工夫が必要。また、現在科目特性や状況に応じて担当教員の個別判断となっているが、グループワークなど学生の発話を伴う講義演習のガイドラインの検討が必要か。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ① 語学や自然科学、社会科学の講義において、題材を身近で現代的なトピックで説明したり、音楽やドラマといったエンターテインメントを扱ったりして、学生の興味を引き、主体的な学びを促した例があった。
- ② 対面とオンラインの特性を相補的に活かした反転授業の試みや、動画リンクやデータ配布などによる講義資料の充実、講義内容に合致した独自のオンラインツールの活用など、ハイブリッド講義の良い取り組みが見られた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

各教員からの教育改善計画からの情報に基づき、

- ① 講義内で取り上げたトピックやその目的、学生の反応、使用したメディアなど取り組み事例を収集し情報共有する。
- ② 反転授業の試みや、講義資料の充実、独自のオンラインツールの使用例などの取り組み事例を収収し情報共有する。

令和4年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	高橋 和子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	週当たりの授業外の学習（課題レポート・予習・復習など）の時間が、1時間前後がほとんどであり、全学平均値より短い科目が6割程度であったが、教員側の学習時間の捉え方に違いがある。
	理 由	技術演習を行う科目は、授業外の学習時間が全学平均を上回っており、担当教員の記載から、自己学習を行う上でも、準備に時間を要するため、学生自身が、事前・事後学習の時間を確保し、取り組まれていることが窺われた。講義科目においては、ほとんどの科目で、1時間前後の事前・事後学習時間となっていたが、課題の指示内容によっては、時間が短い場合でも、取り組み状況から適切な範囲と捉える場合もある（時間の長さだけを指標とせず、成果と照らし合わせて適切な事前・事後学習を考える必要がある）。
②	課 題	学生自身が捉えている授業の到達目標に対する到達度は、ほとんどの科目が75%程度であり、目標とする到達レベルに達した実感が得られる学習の取り組みと、求められている到達度の理解を深める必要がある。
	理 由	授業評価の難易度に対する適切さに関して、学生は、概ね適切と捉えられていたが、平均的な到達度は良レベルに留まっている。実際の成績では、「良」よりも、「秀」「優」を合わせた割合が高い科目が多く、自己評価として高いレベルの到達度を実感できる学習の取り組みが求められる。また、到達目標の理解が充分でない場合、実際の成績と自己評価のずれにつながっている可能性もある。
③	課 題	学生の自由記載に、講義資料の読みにくさや要点の不明瞭さ、教科書よりも要点がまとめられているPowerPoint資料の希望、講義で使ったすべての資料の配布を求める意見などがあり、教材をもとに自己学習を促したい教員の意図と、学生の捉え方にややずれがある。
	理 由	文字量の多い資料や、抽象的な説明、要点を自分でまとめなければならない資料は、改善が必要な事項として学生が挙げている場合が多い。講義資料や教材の改善は必要であるものの、学生の要点を読み取る力の低下も懸念される。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	・学習したことを授業で活用したり、小テスト等で理解度の確認ができたり、「知的関心が喚起」されるような課題など、学生がメリットを実感できる事前・事後学習の内容や課題の提示を検討する。引き続き、学生が、意欲を持って主体的に学習できるよう、事前・事後学習も含めて、成果につながる学修方法の工夫について、FD等で共有・検討する。
②	・それぞれの科目において、学生自身が求められている到達レベルを具体的にイメージできていないことが想定される。科目の技術演習において、4年生にTAを依頼し、学生の学習意欲や学習効果の向上につなげている科目もある。グループワークや演習の際に、身近なロールモデルと共に学習する機会を設定し、学群内の学年を超えた学び合いの強化を促進する。
③	・読む力、情報の中から要点をまとめる力、要点から具体をイメージできる学習体験など、育成したい学生の能力を考慮した講義資料の作成や活用を意識する。 ・学生の能力の養成を促進する効果的な講義資料の作成、活用方法に関するFD等を開催する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・4年生への演習のTA依頼による、学年を超えた学習の共有、学習到達度の確認（先輩学生との学習機会の設定による意欲向上）
- ・科目の実技演習を期末に行うことによる知識の復習、実習にむけての実践学習の実施（座学と実践の結びつきの強化）

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・学年を超えた学生同士の学び合いに関わる理解を深め、活用につなげるためのFD等を開催し、学生の主体的な学修の支援方法を検討する。
- ・スキルスラボ等の新たな学修環境や整備した機器・教材の活用により、学習への興味・関心を高め、学習活動を促進する。

令和4年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	これまでも同様の傾向はあったが、必修科目である数理系の専門科目において、事業構想学群学生として学習の進捗に困難を生じている様子が見て取れる。
	理 由	宮城大学に進学した際、高校でいわゆる理系の科目選択をしていなかった学生が、専門科目や基礎的な科目での理科系内容に対して追従が難しい場面があるように思われる。
②	課 題	講義系の科目の中で、事前学習、事後学習に費やす時間が少ない科目群があることと、演習系の科目の中で突出して事前事後の学習に時間を費やしている科目に顕著な差異がある。
	理 由	特にデザイン系の演習系科目は、授業時間の前後に各自が制作、検証する課題制作などが中心で、授業時間はその課題内容への議論や発表についやされる傾向がある。他方、講義系の科目の中には聴講してその日にレポートで完結するような科目もあると推測される。
③	課 題	学群生必修のキャリア開発系科目への学生の評価が芳しくない。これからの宮城大学におけるキャリア形成のための科目運営について取り組むべき課題が多いと思われる。
	理 由	新しい体制で新旧科目の内容が混在する中で、就職活動を前提とした学生指導に重点を置いていた時期から、徐々に個別のキャリアパスの形成を目指す科目の設計に向けた過渡期であることが理由と考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	コンピュテーショナルデザインや建築関連科目、データサイエンスを活用したビジネス・ソーシャル関連科目が大学教育の中でさらに重要視されていく中で、理系科目の苦手意識を克服し、社会の変動に応じた個々の学生の対応力、順応性の育成が急務である。DXを活用した基礎的なデータサイエンスやプログラミングの教材を開発することに令和4年度は着手できているので、こうした教材を学群教育においても活用し、苦手意識の克服を進めつつ、DX思考の学生を育てていくことに注力していきたい。
	授業時間外でのリサーチや制作、討議などを踏まえ、反転授業の形式を取り入れた科目運営の必要性も高くなってきている。また、フィールドワークなどを活用して実感を伴った学びの体系化も進んでいる。他方、遠隔授業のメリットを活かしつつ、大学キャンパス、教室に実際に足を運んで時空間を共有することで学びの質を高め、その知見を他の科目群と連携させながら学習の深みや幅に広さを獲得していくきょうく手法の高品質化も必要である。こうした多次元な科目運営に必要な手法開発や、機会の提供に資する学群としての取り組みをさらに進めていきたい。
③	新旧の科目の入れ替え時期であり、その体制の変更に伴い学群としてのキャリア形成教育のあり方を転換する時期であると考えている。大学入学の段階で卒業後の確実な就職を目指すというルートの他、在学中、卒業後と連続する社会との関わり方の多様化、複雑化を考えると、在学中の科目の受講という経験を通じて、進学や就職の他にも様々な自己のキャリアデザインがあり、その道りを自覚的、自律的に進んでいけるような個々人の育成に向けた授業内容の精緻化、科目運営の改善が求められている。科目担当の教員を中心に学群全体として向上に努めていく。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

コンピュータグラフィクス（蒔苗耕司先生）今年度は対面授業として実施でき、これまでに開発した昨年度に作成したオンライン授業コンテンツと教科書教材の併用することにより、試験成績や授業評価における学生の理解度において良好な値が得られた。今後も理解度と難易度の適切なバランスの確保を進めていく

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

コロナ禍以降運用が本格化した遠隔授業システムを活用しつつ、大学で対面で学ぶことの意義と意味をしっかりと押さえた科目運営の検討が、今後の教育現場における優位性の確保、大学教育の存亡に関わる重大な要件となることを踏まえ、それぞれの科目での授業実施における手法の改善に取り組んでいくことを日々の研鑽としていきたい。

令和4年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。					
①	<table border="1"> <tr> <td>課 題</td><td>授業の到達目標に対する到達度が低い科目が散見される</td></tr> <tr> <td>理 由</td><td>授業内容の難易度あるいは授業の方法が学生の理解に繋がっていない可能性がある</td></tr> </table>	課 題	授業の到達目標に対する到達度が低い科目が散見される	理 由	授業内容の難易度あるいは授業の方法が学生の理解に繋がっていない可能性がある
課 題	授業の到達目標に対する到達度が低い科目が散見される				
理 由	授業内容の難易度あるいは授業の方法が学生の理解に繋がっていない可能性がある				
②	<table border="1"> <tr> <td>課 題</td><td>令和4年度からスタートした新カリにおける科目構成および配当年次の妥当性の検証</td></tr> <tr> <td>理 由</td><td>従来2年次に開講していた専門基礎科目を1年次に前倒ししたこと等による体系的な学修効果を調査する</td></tr> </table>	課 題	令和4年度からスタートした新カリにおける科目構成および配当年次の妥当性の検証	理 由	従来2年次に開講していた専門基礎科目を1年次に前倒ししたこと等による体系的な学修効果を調査する
課 題	令和4年度からスタートした新カリにおける科目構成および配当年次の妥当性の検証				
理 由	従来2年次に開講していた専門基礎科目を1年次に前倒ししたこと等による体系的な学修効果を調査する				
③	<table border="1"> <tr> <td>課 題</td><td>ノートテイキングをしない学生が多いことを指摘した科目があった</td></tr> <tr> <td>理 由</td><td>パワーポイントによる授業が多いことも原因である可能性がある</td></tr> </table>	課 題	ノートテイキングをしない学生が多いことを指摘した科目があった	理 由	パワーポイントによる授業が多いことも原因である可能性がある
課 題	ノートテイキングをしない学生が多いことを指摘した科目があった				
理 由	パワーポイントによる授業が多いことも原因である可能性がある				
1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。					
①	当該科目の担当教員に、アンケート結果の検証をしてもらい、到達目標の妥当性をはじめ、授業の方法等の見直しを依頼する。				
②	新旧カリキュラムが並行して開講していたので、1年次学生と2年次学生が同一の科目を履修していた。同一科目内でのアンケート結果を年次別に分けて検証し、科目の前倒しによる影響を調べる。				
③	授業におけるパワーポイントの多用の是非、学生の授業中のPCの使用目的等について教員間での議論が必要かもしれない。				

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
教員が提示するPPTはあくまでも教員のまとめであり、皆さんが行う勉強はテキストを基本にすることだとしっかり理解して下さい。そうしないとお金を出してテキストを買う意味が全くなくなります。PPTを書き写すことは学ぶことではありません。	
2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
テキストがある授業とテキストはないが教員が作成した教材を用いて行う授業におけるパワーポイントの効果的な使い方、学生が授業に持ち込むPCの使用について議論する必要がある。	